



# 三重陸協たより

三重陸協広報部発行

第9号

平成18年3月4日

## 平成17年度をふり返って

三重陸上競技協会 理事長 名古 岳彦

平成17年度も総会を残すだけとなり、激動の中にも無事1年を終われることに対し、陸協の皆様方にお礼を申し上げます。

地区陸協・小学生・中学校・高校・一般と各持ち場の中で活躍をいただき、大変な試合数をこなし、一年中動きまわっていたいただいた審判の皆様方、又、競技力向上を目指し、一年中休み返上で頑張り実績を上げていただいた現場の皆様方、本当にご苦労さまでした。ありがとうございました。

また、市町村合併にともない、一志・久居陸協がなくなってしまった事は一抹の淋しさを感じますが、これも時代の流れか、一志・久居陸協の皆さん、長い間ご苦労様でした。新しい地区陸協での活躍を期待いたします。

さて、競技成績におきましては、中学校・高校・一般ともに全国大会で優勝・入賞を成し遂げてくれ、“全国に三重ありき”の力を示していただきました。この力を今後どのように引き継いでいくのか、強化部を中心に考え、頑張ってゆきたいと考えています。

又、全国大会の開催誘致をと日本陸連にも出向き、会長にも色々とお動いいただきましたが、残念ながらまだ決定に到っておりません。これも、タイミングがありますので、チャンスを逃がさないよう努力をしてゆきたいと考えています。

市町村合併に伴う地区陸協のあり方、法人化(NPO法人など)、新しい大会開催(市町対抗駅伝等)等、いろいろと試みていますが、なかなか進展した動きには到っておりません。

会長からも提言を受けており、新しい三重陸協を模索してゆき、18年度には皆様に新しい何かを示せればと思っています。

18年度は、17年度以上のご協力を競技力・競技運営共々によりしくお願い申し上げ、17年度の総括とさせていただきます。

### 2006日本ジュニア室内陸上競技・大阪大会 8名が入賞

2月11日(土) 大阪城ホールで開催された2006日本ジュニア室内陸上競技・大阪大会で、8名(中学生7名、高校生1名)の選手が入賞し、トラックシーズン開幕に向けて期待のもてる結果となりました。

中学の部	2位	60mH	8.22	長谷川 悠	一志中
	2位	走幅跳	5m41	森本 詞織	度会中
	2位	走高跳	1m60	藤本亜希子	名張北中
	3位	60m	8.01	山本ひかる	度会中
	4位	60m	8.02	愛敬 麻矢	成徳中
	5位	60mH	8.46	日置 雄斗	一志中
	8位	60m	7.26	中井 一磨	度会中
ジュニアの部	8位	走幅跳	6m52	前出 卓也	四日市工高

## 石田先生を偲んで

三重陸上競技協会の発展と選手強化にご尽力いただきました石田邦彦先生が、昨年12月病気のためお亡くなりになりました。面倒見がよく、きびしいなかにも優しさのある人間味あふれる性格で、競技会では審判長として、また、若い指導者や審判員の育成にも力を注いでいただきました。みなさんから慕われた先生の足跡をふり返り、私たちにも力をいただけたらと思います。



石田先生は、昭和21年4月9日鈴鹿市で生まれ、地元の神戸高校に進学されました。そこで、村島諭明先生(三重陸協会長)と出会い短距離の選手としてご活躍になりました。その後、日本体育大学に進学されました。

昭和44年、大学を卒業された後、1年間皇學館高校で勤務された、翌年(昭和45年)四日市工業に赴任されました。当時の様子を、教え子でもある宮田藤志次(三重陸協理事、四日市工業監督)さんは、「とてもおっかない先生。でも、陸上部の生徒にはとても優しかった。」と語っていただきました。その、印象は、四日市工業陸上部に代々受けつがれていったそうです。

四日市工業時代には、宮田選手が徳島インターハイ(昭和46年)で1500mSC2位に入賞したのを皮切りに、地元三重インターハイ(昭和48年)では、後のマラソンオリンピック代表の瀬古利彦選手が800m・1500mの二冠に輝き、男子総合5位、翌年の福岡インターハイ(昭和49年)では瀬古選手の800m・1500m優勝、5000m2位の活躍で、男子総合2位という成績を残されました。また、三重県高校駅伝では昭和46年から連続優勝され、その伝統は宮田先生に受け継がれ、四日市工業は11連勝という偉業を達成しました。

昭和52年に菰野高校に転勤された、松山インターハイ(昭和55年)1000m2位の伊藤泰美選手を育てられました。平成7年に四日市工業にもどられ、大阪国体(平成9年)少年B100m優勝・丸亀インターハイ(平成10年)で1000m2位の岡部和憲選手をはじめ、岐阜インターハイ(平成12年)では4×100mR(4位)と4×400mRのリレー2種目を入賞させるなど、輝かしい実績を残されました。

恩師村島諭明理事長のもと、昭和59年から平成14年までは三重陸協の強化部長を務められました。特に都道府県女子駅伝が開催された当初は、三重県チームの監督としてご活躍になり、三重県中を沸かせた6位入賞(昭和62年:第5回)など、三重県女子長距離界の発展に大きく貢献されました。その後も競技部長をはじめ、日本陸連評議委員など三重陸協の中心となってご活躍されました。平成9年には終身第1種審判員になられ、近年は審判長として競技会の運営にもご尽力いただきました。

日本陸連から昭和52年には平沼記念章、平成9年には秩父宮章を授与され、その功績は三重県だけでなく、東海・全国でも高く評価されました。

まもなくトラックシーズンが始まりますが、競技場で石田先生の「おーい……」という声もう聞けないかと思うと、大変淋しくなります。しかし、亡くなられた先生に一番よろこんでいただけるのは、先生が追い求めた「強い三重陸協」をつくりあげていくことではないでしょうか。

石田先生のご冥福をお祈りいたします。

(文責 三重陸上競技協会 広報部長 南部 朗)